

和歌山市議会二月定例議会は二月二十七日から開会され、私は三月八日、一般質問にたちました。市内本町地区に建設計画がされている場外馬券売場設置計画に反対する立場から、二月十九日、農林水産省担当課を訪れ、本町地区連合自治会三十六単位自治会のうち過半数を超える十九自治会が反対している実態を訴え、本町地区の皆さんの声を直接届けたことを明らかにし、場外馬券設置が及ぼす青少年への影響を質し、市長に施設設置反対の意思表示を要請しました。

農水省に住民の声を届ける

二月十九日、場外馬券売場設置の許認可権を持つ農林水産省を私、奥村のり子県会議員、原やすひさ氏と訪れ、施設設置の許可をしないよう求めました。

農水省担当課は「まだ兵庫県競馬組合から許可申請は提出されていないため規模も条件も解らない。農水省へは十九単位自治会から施設設置反対請願書が、また各種団体からは二十七団体から同じ趣旨の請願書が、提出されていることは承知している。許認可に当たっては法基準に従って審査、判断されることとなる」と答弁しました。



農水省に住民の声を届ける。右から奥村県議、原氏と私

連合自治会の過半数を超える自治会が反対を表明

農水省交渉に立ち会って 原やすひさ

二月、農林水産省に出向き「自治会、各種団体が反対していることを正しく受け止め、許可はするべきではない」と交渉してきました。

「地域の皆さんの声をよく聞き、厳正に判断をする」との答弁でしたが、ひき続き皆さんの声を上げることが大切であると感じました。地域の皆さんの要望に添えていきたい。



和歌山市をギャンブルに頼らない街づくりに!

本町地区連合自治会は三十六の単位自治会で構成されていますが、その半数を超える十九単位自治会は、場外馬券売場設置許認可権をもつ農林水産省にたいして「施設設置反対・請願書」が提出されています。

また本町地区で日常の地域の安全、安心を図る地域活動の拠点となっている地区社会福祉協議会などの二十七各種団体も同様に「施設設置反対・請願書」が農水省に届けられています。

私は一般質問で「過半数を超える単位自治会が施設設置に反対を表明し、地域各種団体の九〇%の団体が反対請願書を農水省に届けている」ことを指摘し、市長に「施設設置に反対はしない」とした記者会見表明の取り消しをもとめました。市長は「公営競技は全て悪いとは思わない」との姿勢です。



市議会議員 渡辺忠広

渡辺忠広 無料生活相談所

毎週・火曜日 十四時～、十八時三〇分～

和歌山市土入二四一五

電話 〇七三ー四八〇一五四七七

顧問には弁護士、司法書士、会計士、社会保険
労務士の方にお願ひしています。

日本共産党和歌山市議会議員

渡辺忠広ニュース

2013年 3月 No. 35

自宅 和歌山市木ノ本71-54

電話 073-452-5732

Mail watanabe @ naxnet.or.jp

市議団・電話 073-435-1113

避けられない 青少年への影響

場外馬券売場の設置は青少年への影響は避けられません。

近くには本町・城北小学校、伏虎中学等々があり、施設設置場所前の道路は通学路指定されています。

1991年大阪府警少年課が府内3箇所における馬券売場で補導した青少年への実態調査を示し、その影響を質しました。

「5ヶ月間の補導は658人、中学生・23人、高校生443人で、馬券購入回数5回以上は98名。下級生から脅し取ったのは15回・3万円を馬券購入に当てた」との調査があることを指摘し、教育委員会にこうした補導実態に対する意見を求めました。

教育委員会は「施設設置をきっかけとして犯罪を引き起こすこともあり対策が必要だが、非常に憂慮すべき内容」と答弁しました。



近隣の市関連施設への影響も懸念

隣接する「みんなの学校」への影響は...

和歌山市の中心市街地、本町地区中ブラクリ丁に計画されている「場外馬券売場」設置計画地に隣接する場所には和歌山市が支援する「みんなの学校」があります。

「みんなの学校」は和歌山大学、高校生などが中心にNPO団体が主体的に街作りの担い手となる人材育成、社会貢献をめざすことを目的に平成二十一年に設立され、ハロウィン等々二百五十六件の多彩なイベント事業を展開し、昨年の来場者は一万五〇〇〇人を超えています。

多くの参加者との懇談では「多くのイベントに参加し、少しでも街の賑わいに協力できれば、との思いで楽しんでいる。馬券売場などのキャンセル施設は『みんなの学校』の設立目的とも合わない迷惑施設だ」「百害あって一利なしの施設」との話が多数です。

計画地前の「キッズステーション」では



親子で集まる子育て支援の場「キッズステーション」

場外馬券売場設置計画地前には「キッズステーション」があります。施設は平成十三年度から空き店舗を活用し、概ね三歳未満の子育て家庭の親と子供が気軽に交流し、子育て支援拠点事業として和歌山市は支援もしています。昨年度の利用者数は一万一五〇〇人を超えている事業です。よく利用している、と言われる女性は「両親と離れ生活している。育児経験もなく、ここへくれば授乳の仕方、子供の病気、保健所との関係や幼児検診などなど、その対応を話し合うことで子育ての安心感が生まれてきた。近くに馬券施設ができること聞き、驚いている。ステーションにならば困るし、移転されても困る。また近くの駐車場は馬券関係者で埋まってしまえば本当に困るとの話です。

私は市議会の一般質問で市長に「場外馬券売場設置は大きな影響を与えることは避けられない。市長の『施設設置に反対しない』とする態度の取り消し」を求めました。

市長は「法的に認められた公営競技については悪いものとは思わない。今回は市長に同意を求められていないため、施設設置の可否判断は連合自治会がするもの」と、答弁しました。



青年・学生があつまる「みんなの学校」

